

ニセコのミライを、彩る仕事

～多様な人々が暮らすまちで、住民の暮らしを色鮮やかに
人とかかわる、地域を支える、未来を考える

北海道ニセコ町は、5,000 人規模という小さな自治体では珍しく、人口が微増し、今後も人口維持が見込まれています。世界的にはパウダースノーが有名で、インバウンド経済の象徴のようなリゾート地としてメディアでは取り上げられることが多い一方、住民自治と情報公開のまち、持続可能な農業を大切にしている農村です。

そんなニセコ町では、近年、SDGs 未来都市として「環境を生かし、資源、経済が循環する自治のまち」を目指しています。同様に、多様性を重視しているニセコ町では、町役場においても社会人経験者採用や民間企業からの出向など、多様で幅広い視点を取り入れた行政組織を形作っています。

今回はニセコ町役場の若手では貴重な存在となりつつある地元出身の D さんにお話を伺いました。

本日のインタビューでお話を伺った方

ニセコ町出身。2017 年に入庁。建設課住宅管理係、商工観光課観光戦略推進係、企画環境課モデル都市推進係、都市建設課土木係を経て、現在、商工観光課商工観光係に在籍。商工観光係では、商工業の活性化に向けた補助事業や協同組合の運営支援、人材不足対策、宿泊税の使途検討などの業務を行っている。

中学校・高校の職業体験などを通じて、公務員になりたいと思っていたが、働くなら生まれ育った地元が良いと考え、ニセコ町役場を選んだ。

ギャップはあった？ 若手から見たニセコ町役場

ーニセコ町役場で実際に働いてみて、期待とのギャップはありましたか？

私の中でニセコ町と言えば、やはり農業と観光のまちというイメージが強く、それ以外の事業分野があまりピンと来ていなかったんです。それで就職して、建設課に配属されて勤務してみると、こういった仕事もあるのかと業種の多さには驚きました。ただ私自身、中学校・高校と職業体験で役場の仕事を見てきたこともあって、職場のイメージは持っていました。それから高校卒業してすぐニセコ町の職員になったので、他の事業者や業務を知らなかった分、想像と違うとかギャップがあったとかは感じなかったです。



写真：明るく、快適な作業環境を担保する設計、
ニセコ町役場の勤務時間の風景

―職場での経験で良かったことや苦勞したことはありますか？

苦勞というか記憶に残る体験ということでは、胆振東部地震の災害対応だと思います。当時は住宅管理係だったので、実際のブラックアウトの時には、夜中に交代で公営住宅を巡回したり、水や物資の支給、住民の支援をしたのは経験になりました。

良かった点として、自己研鑽のための自主研修予算枠があることです。これまで個人的に参加したものでいうと、全国市町村国際文化研修所主催の「持続可能な地域づくりに関する研修」や、全国町村会主催の「地域農政未来塾」など、道内外様々な研修に参加させていただきました。研修では、学習に加え、参加している全国の自治体職員との交流を通じて事例や悩みなどの情報交換ができるので、新たな知見を多く得る貴重な経験となります。入庁した当初は気づきませんでしたが、ニセコ町は他自治体との比較で研修予算がかなり充実しているため、自身のキャリアアップの面でも魅力的で、とても重要な要素だと思います。

胆振東部地震とブラックアウトとは？

2018年9月6日に北海道胆振地方を震源とした最大震度7の大地震。厚真町を中心に40名を超える犠牲を伴った甚大な災害となった。この地震によって北海道のほぼ全域で停電が発生。電力会社管内の全域で電力が止まる事態（＝ブラックアウト）となった

―若手でも挑戦できる環境はありますか？

これまでも挑戦したいことは後押ししてくれる環境ではありましたが、若い町長に変わって、町長自身も職員にチャレンジだと言っていることもあって、これまで以上に挑戦しやすい環境になっているように思います。上司も職場から出る様々な声を拾ってくれているし、声もかけてくれ、今の職場は何かとチャレンジしやすい良い雰囲気になっています。



―これまでの職務でどんなスキルや力が身に付きましたか？

柔軟な対応力が身に付いたと思っています。また、私自身、学生時代は自分に自信がなくて、比較的ネガティブな思考を持っていたのですが、周囲のサポートもあって様々な状況下で仕事をしていくうちに自分に自信を持てるようになり、ポジティブな考え方が身に着いたと感じています。

ひとつの仕事が感謝につながる－役場の仕事

－業務の中で、自分で判断・提案する場面はどのくらいありますか？

細かいことと言ったらかなりあると思います。日常的に発言しているし、それについて上司も受け止めて一緒に考えてくれています。大きな事業とか予算の大きいものなどは、自分の立場ではまだないですが、常に自分の判断や意見を提案する場面はあります。

－上司との距離感、意思決定のスピード感はどう感じていますか？

上司との距離感は近いと思います。基本的に打ち合わせでは上司が発言することが多いですが、自分も意見があればそこに割り込んで発言することも普通にできるし、上司もそれを受け入れる姿勢があります。意思決定のスピード感についても、（予算や政策方針など）重たい案件とかでなければすぐ対応してくれるし、改善が必要であれば「すぐ改善しよう！」という感じです。もちろん、自分の考えが未熟で、それ故に意見が通らなかったり、人と人なので意見の食い違いがあったり、衝突する場面もありますが、それも距離感が近いということの裏返しとも言えると思います。



－「任されている」と感じた具体的なエピソードはありますか？

現状では、大きな案件を一人で完結するという事はないですが、あるプロジェクトで資料作成を全て任されたことがありました。それから上司の体調不良で長期休養があったときには、一人で係の仕事を任されるという経験もありました。当時は大変だと感じましたし、反省点もありますが、早くに経験できて良かったです。

私は、自由な視点や発想で進めていく仕事よりも、ある程度決まった枠組の中で正確にやりきる仕事の方が向いていると思っています。それでも、今後はさらに経験を重ねることで、自分で新たな提案やその予算組みをしていくことになると思うので、頑張っていきたいですね。

－この仕事でやりがい、プレッシャーや責任の重さを感じる場面はありますか？

最初の3年間は公営住宅の担当だったので、住民の方からクレームだったり、困りごとだったりがありました。それに対応したり、解決できたときに、相手から感謝してもらえる時はやりがいを感じました。その他の部署でも、地元なので町民の方の知り合いも多いですから、何か対応して、お礼を言われると気持ちが良いし、やって良かったと思えます。

また、今の自分の立場だと、信頼できる上司がいて、カバーしてくれる体制があるので、安心して仕事ができているのでプレッシャーはあまり感じないですね。自分の直属の上司だけが特殊というより、職員の中で何か問題や困りごとがあった時に見捨てるとような人はいないと感じているので、若手は安心できる職場だと思いますよ。

―ニセコ町役場に向いている人はどんな人だと思いますか？

ニセコ町役場というか、どの職場も同じだと思いますが、同僚、上司など周りと積極的にコミュニケーションが取れる人は向いていると思います。人と関わるきっかけが減ると、信頼関係が築きにくく、業務の遂行にも支障が出ます。仕事の処理能力が長けていても、周りと信頼関係を築きながら協力体制を作れない人は、苦勞するのではないかと思います。



写真左：多くの訪問者を魅了する尻別川と羊蹄山の冬景色

―どんな想いをを持った人にニセコ町に来てほしいですか？

自分の地元でもあるので、ニセコ町を好きになってくれる人が来てくれたら嬉しいですね。ニセコ町には、移住者と地元の方、町民と2拠点居住者と観光客など立場の違う方が多様にいます。人や立場によって考え方も違いますから難しいテーマだとは思いますが、ニセコを好きにならないと、良いところも、悪いところにも気づけないだろうし、課題を改善しようとも思えないのではないのでしょうか。

今のニセコ町役場はすでに良い状態であると思うので、まずは現状を維持すること、その上で横のつながりを充実させて、仲良く楽しく、そしてやるべき時は団結できるような職場になってほしいと思っています。そんな気持ちを持てる方と一緒に頑張りたいです！